

展開2 教育内容・方法の検討

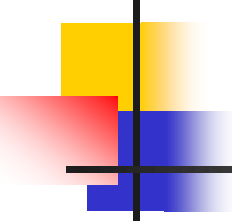
— 平和をいかに教えるか

【発表構成】

- 0 はじめに
- 1 ゲーム理論
- 2 ガルトウング
平和学
- 3 安全保障論
- 4 クライシス理論
- 5 文化外交
- 6 まとめ

- ①定義に関する諸学問の理論
と事例
- ②メディアで流布している言説
- ③平和とは何か 平和が実現
した状態, 平和が失われた
状態

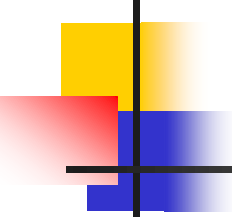
※引用参考文献



0. はじめに

- 「展開2 教育内容・方法の検討—平和をいかに教えるか」(今回発表分)においては、
 - ・「平和とは何か」「平和が実現した状態、失われた状態」
 - ・「目標から見た多様な平和の定義」
 - ・定義に関する諸科学の理論と実例
 - ・メディアで流布している言説

について、5つの立場の見解や資料を紹介し、それらの関係性について説明することとなっている。



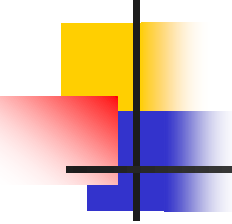
0. はじめに

- 本発表の目的は、「展開1」で分析した平和教育方法をも踏まえて、「展開3 教育目標・内容・方法の授業化」に生かせる題材を提示することである。
- 展開3で作成するモジュールは、それぞれ異なるテーマを扱い、目標・内容・方法に違いを持たせることが想定されているために、6つのモジュールは全体としてどのような平和教育を目指し、それぞれのモジュールが全体の中で何を目指しているかを明確化しなければならない。そこで、本発表においても、取り上げる事例それぞれの平和観とそれらの関係を明確にする必要がある。

事例1. ゲーム理論

①定義に関する諸学問の理論と事例 1) ゲーム理論とは？

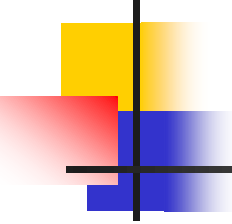
- 社会は、複数の人間によって構成され、社会において人間は互いに影響を及ぼし合っている。つまり、私達の行動は他の人に行動に影響を与え、また、他の人の行動から影響を受ける。
- ゲーム理論は、社会において相互に依存する人間の行動や意思決定とともに、人間行動の分析を通して社会の成り立ちやあり方を研究する学問であり、人間行動から、企業、組織、国家や生物の行動をも分析できる応用範囲の広い理論で、経済学だけでなく、社会科学や自然科学の様々な学問分野で用いられている。



2) 前提

ゲーム理論が前提とする人間のモデルは、

- ある明確な目標をもっていて、それを可能な限り実現しようとするという意味で目的思考的な**合理的人間**であり
- 相手の立場に立ってものごとを考えることのできる想像力と洞察力を持つ**理性的な人間**である。



3) 分類

- **協力ゲーム**：ある契約を結ぶことで協力関係を築くとして、その契約をいったん結ぶと破棄できないという条件で考えるのが協力ゲームで、協力の成果をどのように分けるべきかという問題を考える。
- **非協力ゲーム**：契約をいつでも破棄することができると考え、個々人の合理的な意思決定の帰結が何であるか。それで協力が起こるかどうかという話をする。

非協力ゲームが平和を考える際に使用されることが多い

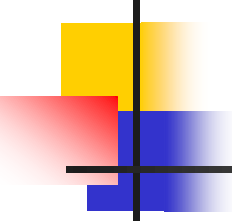
4) 平和教育でのゲーム理論利用

- 冷戦期の米ソ軍拡競争を囚人のジレンマで説明

個々の合理的な選択
(パレート最適)

A \ B	軍縮	軍拡
	軍縮	軍拡
軍縮	1、 1	-6、 6
軍拡	6、 -6	-2、 -2

個々の合理的な選択



4) 平和教育でのゲーム理論利用

- チキンゲームでデタント期の軍縮を説明

A \ B	軍縮	軍拡
	軍縮	軍拡
軍縮	0、0	-5、5
軍拡	5、-5	-20、-20

5) 囚人のジレンマとトリガー戦略

- このゲームが繰り返し行われることを想定すると、長期的な利得を考え、結果が変わる可能性がある。

A \ B	自白 協力	黙秘 裏切り
自白 協力	1、 1	-6、 6
黙秘 裏切り	6、 -6	-2、 -2

互いに協力するが、もし相手が約束を破ったら二度と協力しないという約束

5) 囚人のジレンマとトリガー戦略

約束を守り続けると...

	1回	2回	3回	4回
A	1	1	1	1
B	1	1	1	1

約束を破ると...

計2

計3

計4

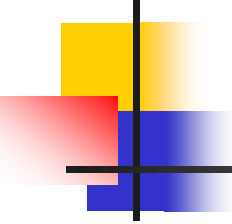
	1回	2回	3回	4回
A	-6	-2	-2	-2
B	6	-2	-2	-2

計4

計2

計0

3回目で約束を破った方がマイナスになる



6) 割引因子を考えると

- 1年後の1万円と今の1万円では、おそらく今の1万円の方が価値が高い。
- 1年後の1万円 = 今の〇〇円 (現在価値)
あなたにとって〇〇円はいくら？
- 例えば、5000円なら、割引因子は0.5
- 割引因子が低い人ほど、現在を重視し、将来を軽視する (将来のことを考えない)。

割引因子が低い者にはトリガー戦略は使えない
→将来のことを考える人の増加が平和に！？

6) 割引因子を考えると

約束を守り続けると...

	1回	2回	3回	4回
A	1	1	1	1
B	1	1×0.5	1×0.25	1×0.125

約束を破ると...

計1.5

計1.75

計1.875

	1回	2回	3回	4回
A	-6	-2	-2	-2
B	6	-2×0.5	-2×0.25	-2×0.125

計5

計4.5

計4.25

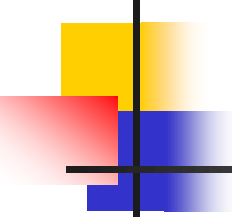
事例1. ゲーム理論

②メディアで流布している言説

オイコノミア「バレンタイン・プレゼント大作戦！？」(後編)

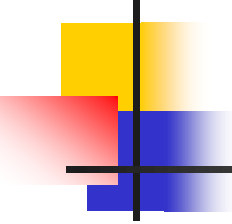
2013年02月12日(火) 23:30～23:54放送





1) 義理チョコと囚人のジレンマ

- 義理チョコを渡すのは避けたいが、自分だけ渡さないとマイナスになるような気がする。ここで同じ部署内の女性同士で話し合いができない状況を考えると、囚人のジレンマの状態になる。
- それを防ぐためには義理チョコは渡さないという約束をし一方が約束を破ったら、義理チョコを渡さないという約束は二度と結べなくなり、ずっと義理チョコを渡し続けるという状態が続くようにすればよい(トリガー戦略)。しかし、それでも彼女らの一方、あるいは双方が割引因子の低い人物であるならば、この戦略は効果が生まれない。



2) なぜこれが適当な教材か？

- おそらくバレンタインデー世界中に広がっているが、世界各地で異なる習慣があると考えられる。チョコレートのプレゼント、義理チョコ、ご褒美チョコといったものは、日本に特有な文化。
- 日本やそれ以外の他国のバレンタイン文化について調べさせ、学ばせることで、複アイデンティティ形成にもつながりうる。
- 前述のゲーム理論をうまく説明できる。

事例 1. ゲーム理論

③「平和とは何か」「平和が実現した状態, 平和が失われた状態」

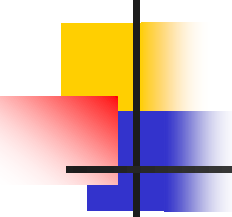
- ゲーム理論において、平和とは、社会的な効用が最大となっている状態（パレート最適）であり平和が失われた状態はパレート最適でない状態。
- 囚人のジレンマではパレート最適が実現できない。トリガー戦略などによって、パレート最適の状態を実現できる可能性はあるが、割引因子が低い場合は不可能となる。
- 割引因子が低い人、将来の価値を重んじる人が増えることが大切。



事例2. ガルトゥング平和学

①定義に関する諸学問の理論と事例

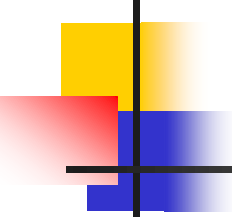
- 平和とは、「暴力の不在または低減である。」
- 暴力の概念には、「直接的・構造的・文化的の3つの形態がある」
- 社会で生起する様々な暴力現象に対して、暴力の3形態を区別し、それらの間の相互関係を分析し、全体として暴力がいかに低減されうるのかを考察。
- 平和は、暴力とは質的に異なるものであるから、平和の概念に至るには、さらなる概念装置上の工夫が必要。



1) 直接的暴力

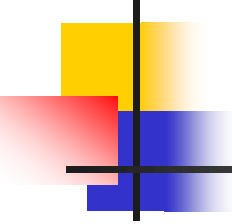
- 家庭内暴力、学校でのいじめ、会社での首切り、国家間の戦争、地域紛争、ジェノサイド、テロリズムなど
- 我々の心身を破壊、痛めつけるもので、そうした暴力の人間への影響は、眼に見える形で現れる。
- 直接的暴力は、制度・規制・法律等を用いて、比較的簡単になくすことができる。

暴力の本質的な性格は、社会構造の中に何らかの形で残っているのではないか？
暴力が一時的に姿を変えているだけは？



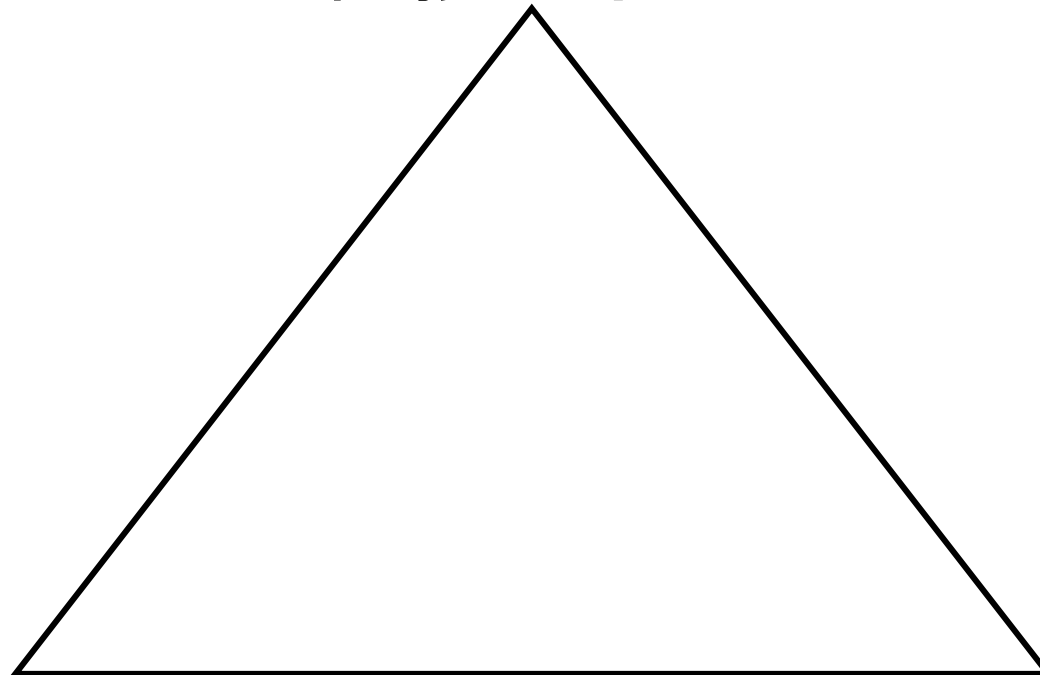
2) 構造的暴力・文化的暴力

- 革命という直接的暴力を、行為者に法律（治安維持法）を課すことによって取り除こうとするとき、社会の表面には直接的暴力はなくなり、治安維持法という構造的暴力（暴力の制度）が生まれる
- 資本主義的な搾取も構造的暴力
- 直接的暴力を除去するためには法律による規制が必要という命題を正当化する言説は、文化的暴力
- 経済的搾取を覆い隠すような「経済学」や有効需要の創出面から国家の経済介入を正当化するケインズ理論も文化的暴力



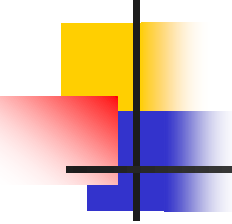
暴力の三角形

直接的暴力



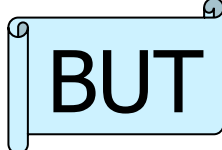
構造的暴力
(暴力の制度)

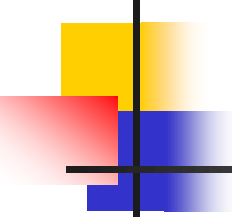
文化的暴力
(暴力の文化)



3) どうしたら暴力を低減できるか？ →「紛争」を考える

- 人々や集団の間に両立不能な目的がある時に発生。
- 紛争は、「態度」「行動」「矛盾」から構成される。
「矛盾」が個々人において内面化されると「態度」となり
外面化されると「行動」となり、しばしばその矛盾から暴力が発生。つまり、「矛盾」のために目的の実現を阻まれた個人またはグループが不満を抱き、彼らの憎悪の「態度」が助長され、暴力的な「行動」が発生。

 **BUT** 紛争から平和が生まれることもある！！

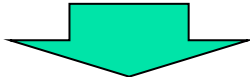


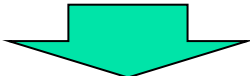
4) 紛争解決の条件とは？

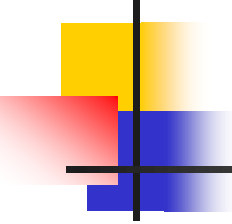
① 平和は平和的な手段によって生まれる

↳ 平和は暴力の不在または低減(第1の定義)

② 紛争の当事者はすべて平等

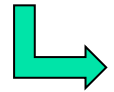
- 
- 自分と他者は異なった行動規範を持っているから、相互理解が必要 → 平等な人間として互いが尊敬し合い理解し合おうと努力するような「対話」が重要

- 
- 過程における平和: 平和とは、平和的かつ創造的な紛争の転換である(第2の定義)



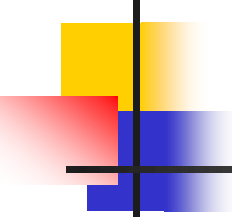
4) 紛争解決の条件とは？

- 到達点としての平和：平和とは人間の基本的な必要がすべて満たされた社会の状態である(第3の定義)



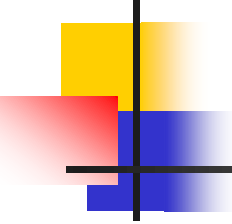
人間が生きていくうえで最小限必要なもの

- 生存：核兵器のような生存を脅かすものがない
- 福祉：より善い生き方を求める
- 自己(アイデンティティ)：社会に埋没しない
- 自由



5) 平和の3形態

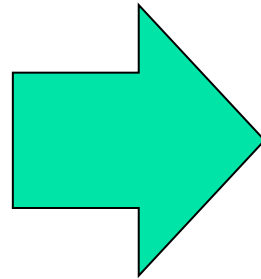
- 直接的平和: 個人間の友情・愛情、国家間の停戦等。それ自体としては脆弱。
- 構造的平和(平和の制度): 構造的暴力の不在または低減。環境保全のための炭素税など社会的規制、平和ミュージアム、平和憲法、平和メディア、国家や営利企業から独立したNGOやNPO。平和の制度は意味の空洞化の危険を孕む。
- 文化的平和: 文化的暴力の不在または低減。平和研究、平和アート、経済学批判。



暴力の三角形

直接的暴力

直接的平和



構造的暴力 文化的暴力
(暴力の制度) (暴力の文化)

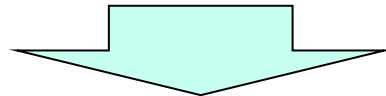
構造的平和 文化的平和
(平和の制度) (平和の文化)

相互理解が生まれる

6) 対話は紛争転換の必須要素

- 互いが平等な人間として心を開いて向き合う。
- 人は対話によって変わり得る。
- 対話において、相手の言うことを注意深く聴くことが単に話すより重要である。

※戦争被害の場合、対話による相互理解だけでなく、さらに加害者の謝罪と被害者受け入れが必須



平和ワーカー（平和実現のために意識的に努力する存在）の必要性：紛争当事者同士では対話が進まない、平和ワーカーが当事者と個別に対話を繰り返し自身を媒介にして当事者同士の対話が可能に。

事例2. ガルトゥング平和学

②メディアで流布している言説

- 直接的暴力: 様々な事件、隣国との国際紛争・対立、ミサイル実験、子供の貧困、格差社会、性差別、民族差別、いじめ、DVなど
- 構造的暴力: テロ等準備罪、集団的自衛権、マスコミ統制、核武装、外国人労働者の労働条件(研修制度)、夫婦同姓の強制など
- 文化的暴力: これらを支持・肯定する言説、ヘイトスピーチ

事例2. ガルトゥング平和学

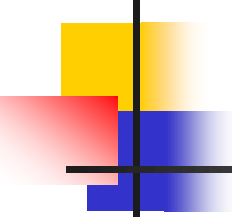
②メディアで流布している言説

- 直接的平和：個人間の友情・愛情、同盟国との友好関係
- 構造的平和：原爆ドーム、平和資料館、平和式典、平和憲法、フェアトレード、ボランティア団体、国際交流の制度など
- 文化的平和：これらを支持・肯定する言説、ほたるの墓、黒い雨、はだしのゲン

2. ガルトゥング平和学

③「平和とは何か」「平和が実現した状態、平和が失われた状態」

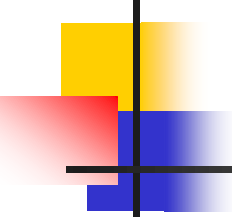
- 平和とは、「暴力の三角形」の状態から「平和の三角形」の状態に、社会が全体として転化していく、不断の過程であり、そのような過程を通じて社会変革がもたらされる。
- そのためには、対話による相互理解や平和ワーカーの存在が必要となる。



2. ガルトゥング平和学

④展開１との関係

- 対話による相互理解、仲介者による平和の促進
→ピア・メディエーション
- 日本における直接的暴力、制度的暴力、文化的暴力や直接的平和、制度的平和、文化的平和について考えることにより、社会的文脈と結びつけて、どのような方法で平和実現が可能で、自分自身に何ができるのかを考えることができる。
→conflict in context？

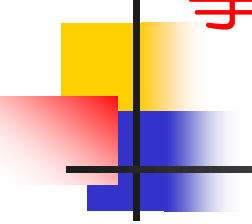


2. ガルトゥング平和学

⑤授業化に関わるメリット

紛争にどのように第三者が介入するかについての、思想・技術・行動であるトランセンド法がガルトゥングによって提案されている。その文脈を日本に置き換えれば利用可能では？

- ミクロ（個人間レベル）：ドレスをめぐる母娘の争い
- メゾ（社会レベル）：ワークシェアリング
- マクロ（国家間・民族間レベル）：沖縄
- メガ（地域・地球レベル）：第2次冷戦と国連民主化の紛争解決の練習問題

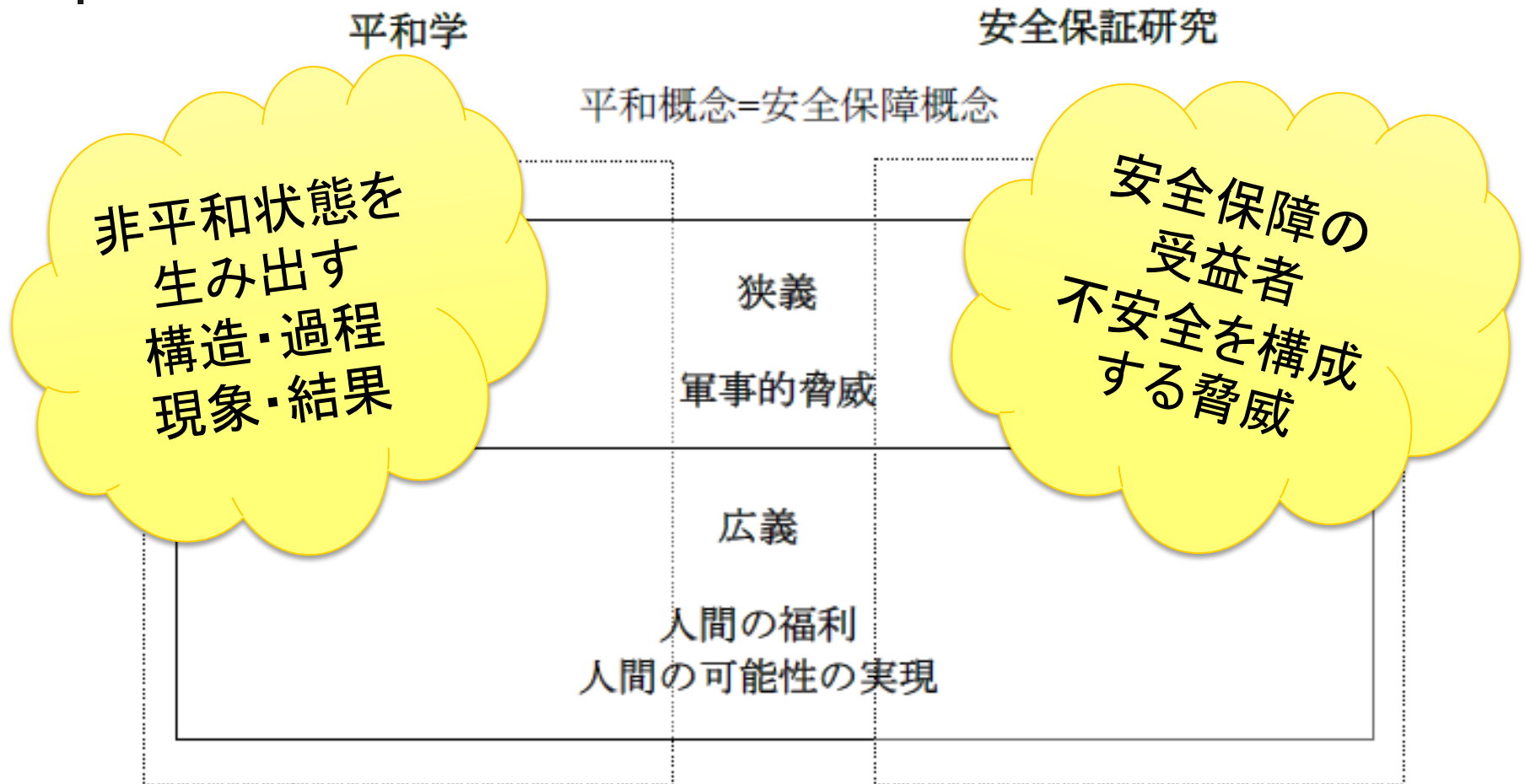


事例3 安全保障論

①定義に関する諸学問の理論と事例

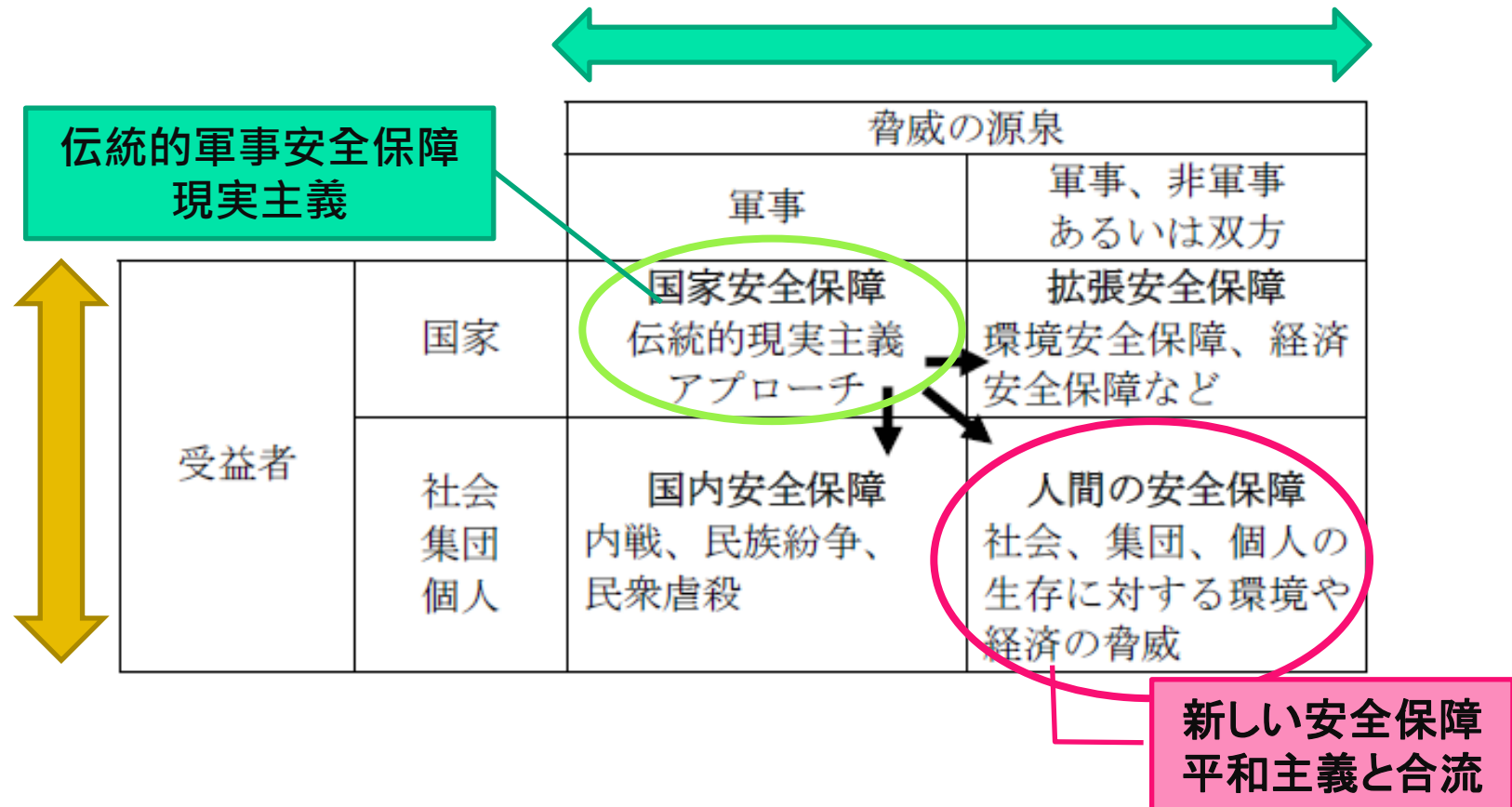
- 平和な状態は「安全が保障された状態」
＝安全を脅かす「脅威」から「解放」された状態
- 平和学における平和概念の拡大、安全保障研究における安全保障概念の拡大によって、「平和」と「安全保障」の概念が重なってきている。
- 平和学と安全保障研究では、「狭義」と「広義」を捉える観点が異なる。

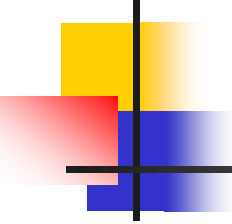
1) 平和学と安全保障研究の 研究対象領域



2) 安全保障の概念の拡大

- 構成要素は何か、の議論が中心



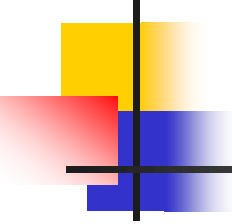


3) 「人間の安全保障」

- UNDP「人間開発報告書」(1994)

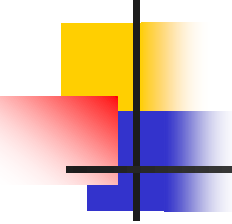
↳ 「人びとの選択の幅を拡大する過程」

- 人間の安全保障は「これらの選択権を妨害されずに自由に行使でき、しかも今日ある選択の機会は将来も失われないという自信をもたせること」
- 目的: 領土偏重 ➡ 人間重視
- 方法: 軍備 ➡ 「持続可能な人間開発」
- 7種の安全保障
経済・食料・健康・環境・個人・地域社会・政治
- 地球規模: (例) 爆発的人口増加、麻薬生産と取引



4) 7種の安全保障の例

- 経済: 安定した基本収入を提供できる仕事の確保
- 食料: 食料を得る権利の保障(生産、購入の権利、公的な食糧配給制度)
- 健康: 環境、医療サービスの整備
- 環境の保全: 水質汚染、砂漠化、塩害などの環境汚染対策
- 個人: 労働災害、女性に対する脅威、児童虐待等あらゆる暴力から身を守ること
- 地域社会: 伝統的慣習の中の圧政、民族対立被害
- 政治: 人権保護、民主化



5) 平和教育における 「人間の安全保障」の意義

- とにかくあらゆる「脅威」から解放されることを目指す安全保障である。



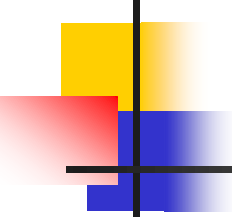
- UNDPでは7つの安全保障は国家の責任とされるが、教材としては責任を問うためとしてではなく、「安全」と「不安全」の状態が戦争や軍事的な要因以外からも構成されることを示すのに有効であると考えられる。
- 想定される平和・非平和状態はガルトゥング平和学と大きく異なるものではない。状態を捉える別の視点として扱うことができる。

事例4 クライシス（危機）理論

①定義に関する諸学問の理論と事例

1) クライシス理論とは？

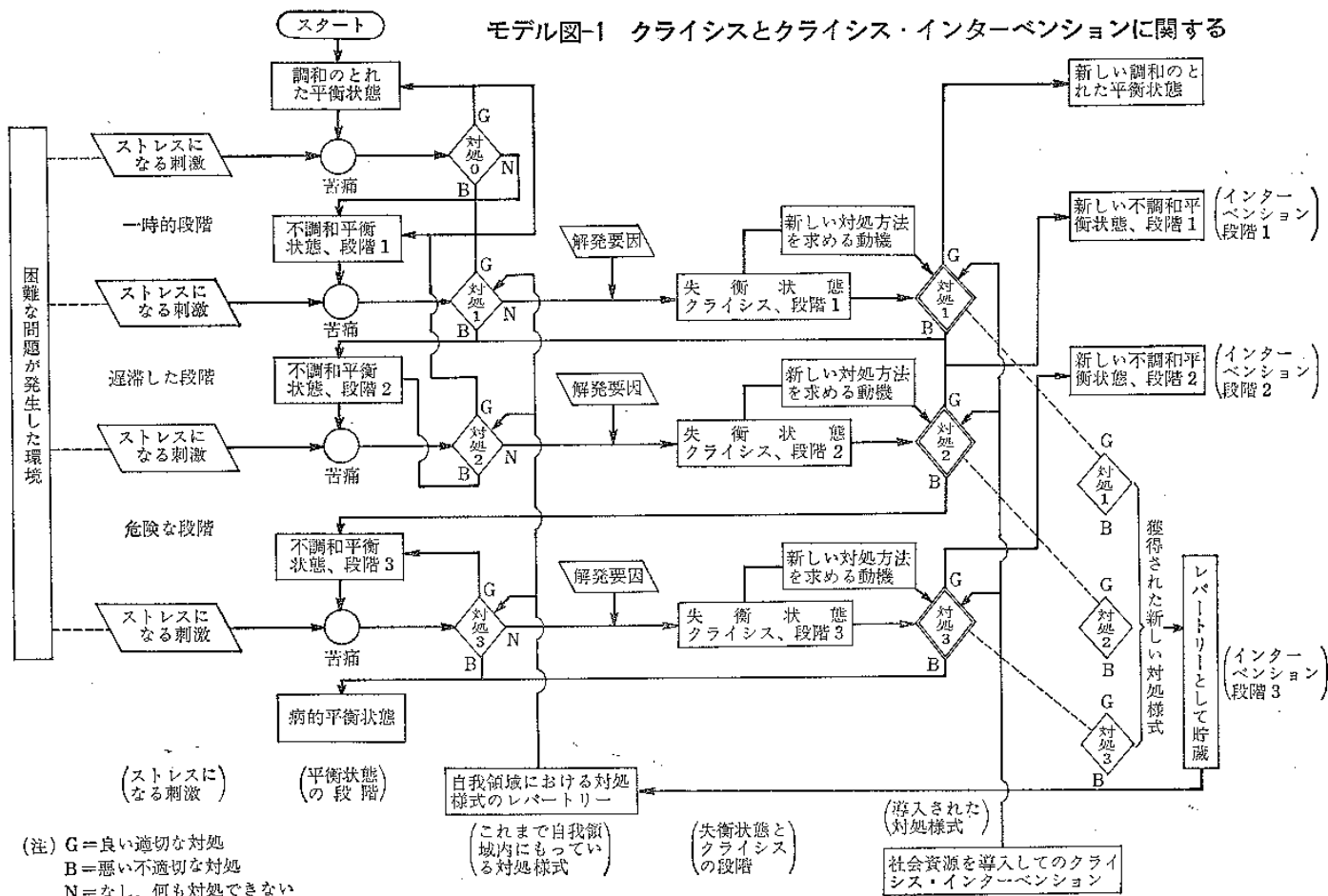
- 個人、集団、社会におけるクライシス状態とそれに対する対処による状態の変化を説明する理論
- 地域精神衛生や予防精神医学で重要とされる理論だが、社会心理学や臨床社会学にも(数は多くないが)応用されている。
- クライシス状態とは“恒常的な状態が動揺される”状態である。(問題が発生したときに、習慣的な問題解決行動では解決できない状況を指す)

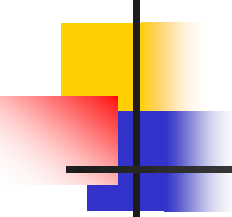


2) 前提

- クライシス (crisis) は、「峠」「分かれ目」等の意味を持つ。
 -
- クライシス状態の発生自体はマイナスではなく、それを契機に成長する可能性を有するものとして捉えている。
- クライシス状態は、個人の精神、家庭、社会全体等どのようなスケールでも起こりうる。
- 何も問題が起きない状態は「平衡状態」
- これを脅かす問題が発生し、習慣的な問題解決では対処しきれなかった状態は「不調和平衡状態」
- それに対して対処できず、新しい対処が求められた状態は「クライシス状態」

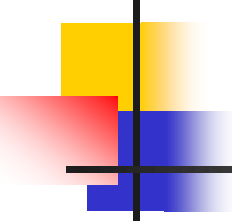
3) クライシス・モデル





4) クライシス理論の性質・特徴

- クライシス状態は成長を促進させる要因ともなる。古い習慣を動揺させ新しい反応を引き起こし、新しい発展を促す要因となる。
- 導入した対処が適切であろうと不適切であろうと、その対処は個人または集団にとって新しい対処様式であると捉え、レパートリーに加えられると共に次の苦痛状態解決に利用される。
- 段階2以降では適切な対処をしてもすぐに平衡状態に戻るわけではなく、その前の段階まで戻る。



5) クライシス状況への働きかけの分類

- ① 予防的な働きかけ: おこりうる事態への対処方法の知識やその事態の特徴への知識を予め準備。
- ② 他の資源を利用するのを可能にする: 事態へ対処するための体制づくりをする。
- ③ クライシス状況時での働きかけ方: 現在直面する状況に対する新しい見方、捉え方を目指す。新しい解決様式を試みさせ、状況を乗り越えさせることで、新しい対処様式を獲得させる。健全な状態の部分を最大限生かして、問題部分だけをカバー、変革しようとする。

事例4 クライシス理論

②メディアで流布している言説

■ 一橋大学アウティング事件

ブログ

ハフポストの言論空間を作るブロガーより、新しい視点とリアルタイムの分析をお届けします



Letibee LIFE ♡ ファンになる
LGBT LIFE MEDIA



一橋大学ロースクールでのアウティング転落事件～原告代理人弁護士に聞く、問題の全容

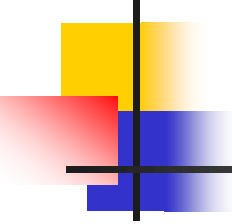
投稿日: 2016年08月09日 15時21分 JST | 更新: 2016年08月09日 15時21分 JST



- 一橋大学のロースクールでアウティングされた男子学生が自殺してしまった事件
- 友人によるアウティング行為と、大学側の対処が問題となった。

左記画像webページ
(HUFFPOST)

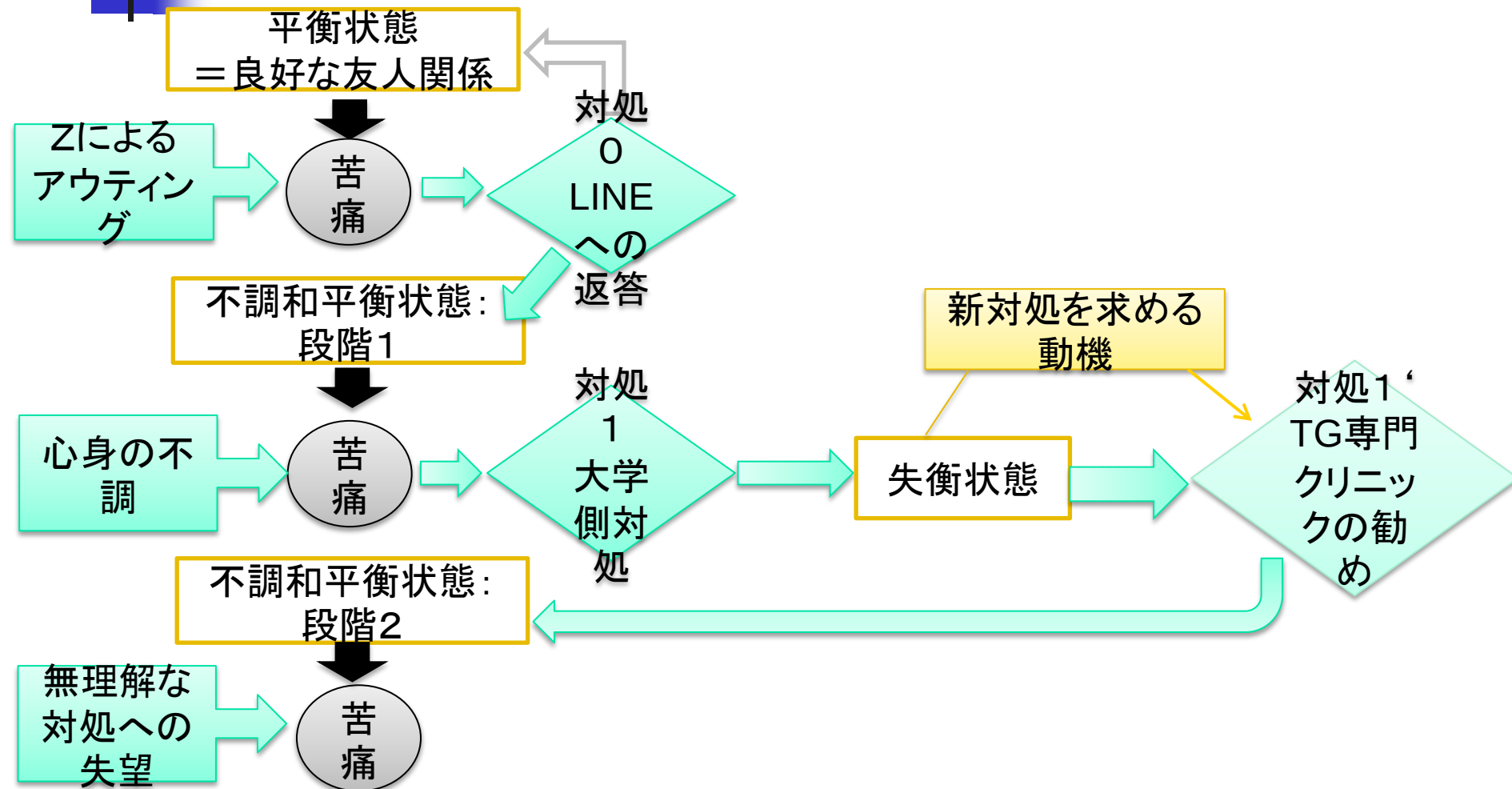
ニュース映像(ANNニュース/
16.08.05)

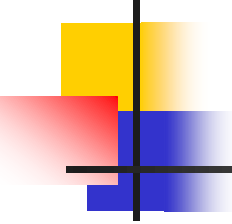


1) 一橋大学アウティング事件概要

- 友人(10名程度のグループのうちの一人)を好きになった同性愛者の男子学生Aが相手Zに告白したところ、アウティングされた。(LINEグループ会話でのアウティング)
- グループはもともと同性愛者への理解のない発言をしていた。
- LINE上ではAは明るく返したが、その後心身に不調を感じ通院。パニック障害と診断された。
- 大学のハラスメント相談室等に相談したが、「性同一性障害」専門クリニックを勧める等の理解のない対処をした。
- 結果、苦痛状態が続き、自殺してしまうこととなった。

2) クライシス・モデル化





3)なぜこれが適切な教材か？

- 対処による状況の変化が読み取れる。
- 対処の良い、悪い、の判断が付きやすい。
- 対処様式を学ぶことで学習者はそれを蓄積することができる。
- 大学での事例であり、大学生は対処についてイメージを持ちやすい
- 非軍事的な要因からの問題状況であると共に、近年の社会問題を複数含んでいる。(ネット上のトラブル、LGBTへの差別、偏見)
- マイノリティとマジョリティの問題にも関連付けることができる。



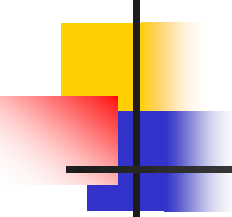
4) 展開1との関わり (平和教育への応用の可能性)

- 問題状況を起こるものであると捉え、その解決能力、方法の獲得を目指す。
- Conflict resolutionとpeer mediationの2つの要素を含みこむと考えられる。
- 紛争という対立的な問題でなくとも、広くクライシス状態として扱うことができる。
- 一つの対処様式で問題は簡単に解決できないこと、長期的段階的に解決することの難しさを表す。
- 自分自身に直接的に関わらない問題でも、実際に起きた問題の対処様式を知ることやシミュレーションなどを用い、対処様式を想定することで獲得することができる。

事例4 クライシス理論

③「平和とは何か」「平和が実現した状態、平和が失われた状態」

- クライシス理論では、何の問題のない状態(理想)は「調和のとれた平衡状態」、つまりバランスのとれた状態を指す。
- また、クライシス理論はクライシス状態は発生するものであるとして、その対処様式の獲得を目指すことから、機会を適切に生かすことのできる健全な社会を平和状態と捉えていると考えられる。
- 最も平和が失われた状態は病的平衡状態であり、クライシス状況の段階が進むほど悪化している。

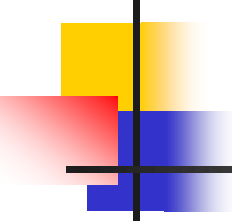


事例5 文化外交

①定義に関する諸学問の理論と事例

- 文化外交とは、文化を手段としての外交形式である。
- 狭義には、国家や政府を主体として、文化、芸術、教育などを通して、他国に自国の政治体制、価値観、文化特性などを伝えて、他国との関係を構築し、発展し、維持することによって、国家の利益を促進する目標を達成する。
- 広義では、それ以外にも、政治の役割を果たすマスコミの製品、映画、テレビ、音楽などを伝達する。

池野の多文化教育、国際理解の論を政治学の視点から見る



②「平和とは何か」

- 21世紀において平和とは単に戦争による対立の不在という簡単な構図ではなくなっている。21世紀の平和は、紛争やテロなどの明らかな暴力が直接生命を脅かす状態はない消極的平和のみではない。
- 「あらゆる類の暴力の不在」と定義する。

暴力

直接的暴力(戦争、テロ、殺人等)

構造的暴力(政治的抑圧や経済的、帝国主義等)

文化的暴力(直接的暴力や構造的暴力を正当化する言説、植民地において現地文化を奪う行為、宗教と核兵器を結びつく言説)

平和構築における文化活動の役割

包括的・多面的平和構築プロセス

対立・紛争

政治的側面 紛争調停、和平合意締結、民主化、ガバナンス構築（含 選挙支援、法整備支援）等

安全保障的側面 平和維持、治安維持、予防展開、紛争地の軍隊・警察の育成、DDR等

経済的側面 経済復興、インフラ整備、貧困の軽減、環境保全、開発支援等

文化的側面（文化活動の役割）

- ・対立者間の触媒としての役割
- ・紛争の相対化
- ・心の平和構築
 - ①相互理解、融和、寛容性の育成、信頼醸成、和解
 - ②アイデンティティの昇華、
 - ③心のケア等
- ・エンパワメント

平和

③事例——中国「パンダ外交」

- 中国は各国との関係発展のために相手国にパンダを贈呈する、いわゆる「パンダ外交」を展開してきた。一番最初にパンダ外交をしたのは、685年、則天武后が統治している時、中国は日本に2頭のパンダを贈った。
- パンダはある程度、特に海外のメディアでは、中国の代表的な動物になっている。中国はこのようなイメージを活用し、文化・価値観の輸出としてパンダ外交を行っている。



官房長官 日本全体が明るくなるニュース

菅官房長官は午後の記者会見で、「大変喜ばしく、日本全体が明るくなるニュースだ。今後ぜひ、元気で健やかに育てほしい。パンダがなぜ人気があるのかを考えると、愛きょういっぱい顔やしぐさなのだろうと思うし、それが日中友好の1つの大きな証しでもあるということも大事だ」と述べました。

中国外務省報道官「よい知らせ」

赤ちゃんを出産した東京・上野動物園のメスのジャイアントパンダ「シンシン」は、6年前に中国・四川省からやってきました。

中国外務省の陸慷報道官は12日の記者会見で、「よい知らせだ。パンダは中国とほかの国との友好の使者である。われわれはパンダが両国の国民感情を一層よくするために大きな役割を果たすよう望む」と述べ祝意を示しました。

日本

アニメ



韩国

——韩流



6. まとめ

ゲーム理論

個人の合理的行動が社会にとって最適になるしくみ構築、将来を重視する姿勢
題材としての義理チョコ

安全保障論

脅威が取り除かれるのが安全で、人間の安全保障の実現を目指す

人間の安全保障

ガルトゥング平和学

暴力の三角形→
平和の三角形
対話や平和メーカー

平和学

文化外交

文化を輸出することで他国との良い関係を構築

ピアメディエーション

クライシス理論

平衡→問題→対処できない→成長・悪化
問題は成長要因

合理的

人間観

必ずしも合理的ではない

個人
民間

平和をつくる主体

国家

クライシス理論

手法が
使える

ガルトウング
平和学

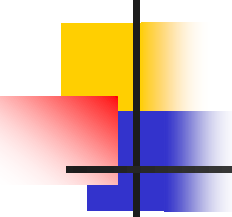
ゲーム理論

目指す平和は
人間の安全保障

文化外交

平和をつくる
手段の1つ

安全保障論



引用参考文献

- 岡田章(2014)『ゲーム理論・入門【新版】 人間社会の理解のために』有斐閣
- 舟木由喜彦(2014)『はじめて学ぶゲーム理論』新世社
- ガルトウング他(2003)『ガルトウング平和学入門』法律文化社
- 山本和郎(1971)「クライシス理論について—社会臨床とコンフリクト—」日本社会心理学会『葛藤と紛争』勁草書房
- 篠田英朗(2003)「安全保障概念の多義化と『人間の安全保障』」広島大学平和科学研究センター「IPSHU研究報告シリーズ」(31)
- 松尾雅嗣(2003)「安全保障と平和」広島大学平和科学研究センター「IPSHU研究報告シリーズ」(31)
- 福島安紀子(2012)『紛争と文化外交——平和構築を支える力』慶應義塾大学出版会
- 吴晓春(2012)「文化外交：内容、発展、役割」长沙大学学报